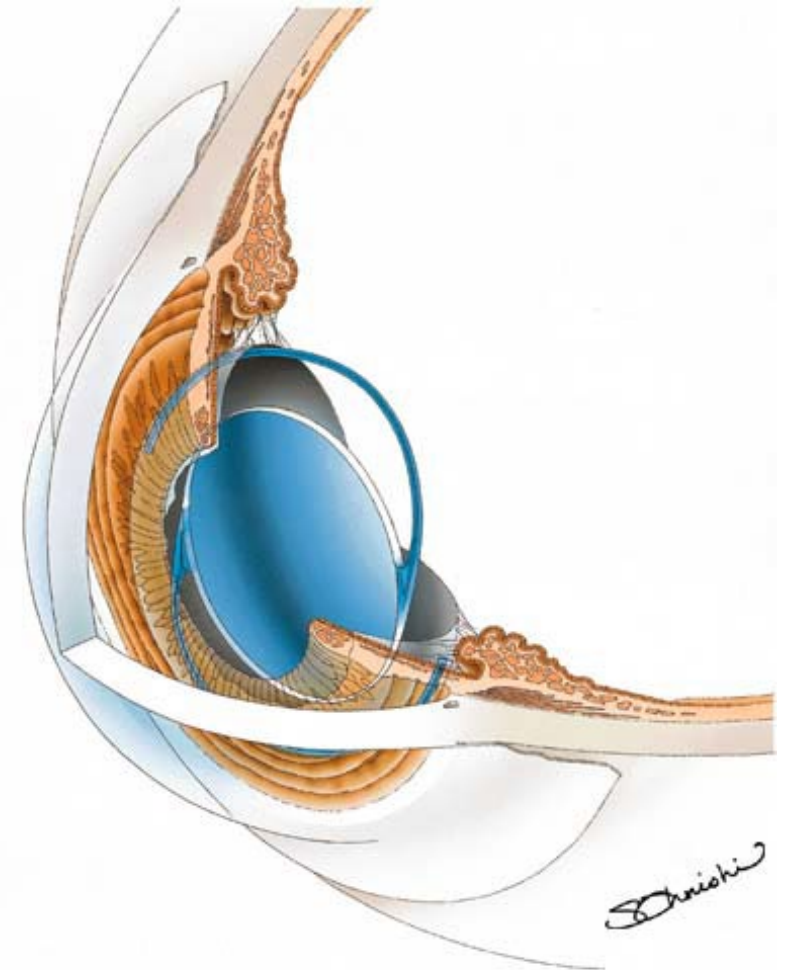


多焦点眼内レンズのメリット

白内障手術では、濁った水晶体の代わりに“眼内にレンズ”を挿入します。眼内レンズにはピントを調整する機能がなく、基本的には1カ所の焦点にのみ対応します。一般的な眼内レンズは「単焦点レンズ」で、例えば遠くをはっきり見えるようにすると近くの本やスマートフォンを見る際に老眼鏡が必要になります。

しかし、遠近両用のメガネやコンタクトレンズがあるように、眼内レンズにも「多焦点眼内レンズ」が存在します。白内障手術で多焦点眼内レンズを使用することで、術後のメガネの必要性を大幅に減らせます。



多焦点眼内レンズのデメリット

■コントラスト感度の低下：

明るい部分と暗い部分の差を感じる能力が10～15%程度低下します。その結果、黒い文字が少し薄く見えたり、薄い膜がかかったように感じる場合があります。

■夜間の「ハロー・グレア」現象：

「ハロー」は光の周りに輪がかかったように見える現象、「グレア」は光が花火のように散る現象です。術後、時間の経過とともに気にならなくなる方がほとんどです。



多焦点眼内レンズの向き不向き

多焦点眼内レンズは、目に入った光を複数に分けるため、光をすべて利用する単焦点眼内レンズと比べると、見え方の質が若干落ちます。眼鏡を使わずに生活することを重視する方には向いていますが、以下のような方には不向きです。

- 非常に精密な視力を要する職業の方
(カメラマン、デザイナー、歯科医など)
- 細かいことが気になりやすい神経質な方
- 夜間の運転が頻繁な方 (職業ドライバーなど)
- 瞳孔が小さい方、緑内障、網膜に病気がある方



多焦点眼内レンズの例

多焦点眼内レンズの種類について

現在、日本国内で承認されている多焦点眼内レンズは10種類以上存在します。当院では、手元の視力を重視した最新の多焦点眼内レンズ（HOYA社、Alcon社、AMO社製の3焦点や連続焦点レンズ）を採用しています。これらのレンズでは乱視の矯正も可能ですが、術後に完全に乱視がなくなるわけではありません。

多焦点眼内レンズを使用することで、遠方から近方まで見やすくなり、白内障手術後に眼鏡を必要としない生活を目指せます。ただし、手元の細かい文字を読む場合には、老眼鏡が必要になることがあります。

選定療養について

選定療養とは、患者さんが追加費用を負担することで、保険適用外の治療を保険診療と併せて受けられる制度です。

多焦点眼内レンズの代金を追加でお支払いいただくことで、手術費用や入院費用は従来どおり保険適用となります。そのため、自費診療よりも安価に多焦点眼内レンズを選択することができます。

ご興味のある方は、ぜひ眼科外来を受診いただき、医師にご相談ください。

